

(4) 地域との連携による教育活動の促進について(教務主事)

地域との連携による教育活動の促進について

地域との連携による教育活動

1. 正規の教育課程での取組み
 - (1) インターンシップ・シニアインターンシップ
 - (2) 地域・企業のニーズに対応した卒業研究
2. 課外活動としての取組み
 - (1) 地域の要請に応じた「ものづくり活動」
 - (2) ロボットなど学生の学習成果を生かした地域イベントへの参加
 - (3) 地域ボランティア
3. 教育力向上のための地域連携の取組み
 - (1) 地域の教育機関(中学校、大学など)との連携
 - (2) 地域の公的機関(市役所、消防署など)との連携
4. 地域貢献としての取組み
 - (1) 高専公開講座
 - (2) 出前講座
 - (3) シンボルロボアイデアコンテスト

1. 正規の教育課程での取組み

(1) インターンシップとシニアインターンシップ

●インターンシップのねらい

- ・本校で学習していることが、企業等の現場では実際にどのように活かされているかを認識し、その後の学習の動機付けとすること。
- ・職業に関する自分の興味や関心・適性を見つめ直すこと。
- ・実社会の厳しさを経験することによって、社会人になるにあたっての自覚を持たせ、自己啓発の機会とすること。

※本科第4学年対象 夏季休業中2週間以上
本年度の受講者数
企業:117名、大学:36名、公共機関:17名

(1) インターンシップとシニアインターンシップ

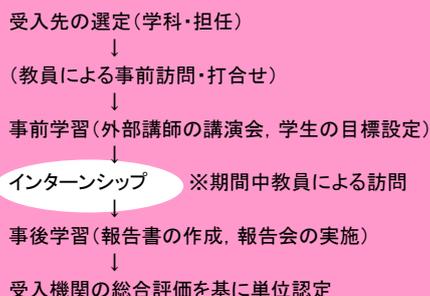
●シニアインターンシップのねらい

- ・高専で身に着けた専門基礎知識と実験技術などを用いて、問題を見出し、計画的にその問題を解決することのできる能力を確かめ、さらに伸張する。
- ・組織の一員としてのマナー、社会が要求する個人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得する。
- ・実習体験で得た成果を今後の勉学の目的や特別研究に活用するとともに、自分の目指す技術者像を明確にする。

※専攻科第1学年対象 連続する1カ月程度
本年度の受講者数
企業:20名、大学:4名、公共機関:5名

(1) インターンシップとシニアインターンシップ

●インターンシップ・シニアインターンシップ実施の流れ



(1) インターンシップとシニアインターンシップ

●インターンシップの課題

- ・4年生の担任を中心としたWGにより実施しているが、受入先の選定や、受入先との事前の打合せなどが組織的に行われておらず、インターンシップの内容が本校のねらいと一致しないことがある。
- ・その結果、インターンシップの内容が「アルバイトの行う作業」と大差ないケースもある。
- ・本年度は、受入れ機関の分析・評価(3段階:適している、内容の事前打合せが必要、本校のインターンシップ先としては不適)を行い、来年度の依頼先の選定に活かすことにしている。

(2) 地域・企業のニーズに対応した卒業研究と特別研究

- 卒業研究の教育目標
研究を通して、専門知識と実験技術を問題解決に利用できる能力を修得し、さらに計画的に問題解決を遂行する能力を持つ、創造性豊かな学生の育成を目指す。
- 特別研究の教育目標
研究の遂行を通して、高度な専門知識と実験技術、自主的・計画的に研究を推進できる能力、さらには社会の要求に対応して新しい技術を提唱できる能力を持つ学生の育成を目的とする。また、論文作成や研究発表を通して、文章表現能力とプレゼンテーション能力の育成を目指す。
- 平成16年度のテーマ及び評価方法(添付資料参照)

(2) 地域・企業のニーズに対応した卒業研究と特別研究

●卒業研究と特別研究の課題

- ・卒業研究において、「教員研究の手伝い」あるいは「練習実験的」になっている場合がある。
- ・特別研究については、学会発表や学会誌への投稿件数を増やす必要がある。
- ・本年度は卒業研究・特別研究の概要を一冊にまとめたものを作成する予定である。その内容の分類、分析により地域・企業のニーズに対応したテーマの促進を図る。(指導教員へのニーズの提供も必要)

2. 課外活動としての取組み

(1) 地域の要請に応じたものづくり活動

アイディア通りプロジェクト

自然エネルギー利用噴水装置



切山地区案内ロボット



あかがねの里 銅物園プロジェクト

(2) ロボットなど学生の学習の成果を生かした地域イベントへの参加



金子ふるさとためきまつい
全国商工会議所青年部連合会「大物産展」
24時間テレビ「愛は地球を救う」



(3) 地域ボランティア

- クラブ活動
奇術愛好会による出張実演
- 学生会活動
環境委員会による道路環境の維持(里親制度)
- 寮生会活動
地元の皆さんと協力して学寮周辺の溝掃除



2. 課外活動としての取組み

●課外活動としての取組みの課題

- ・実績数が少なく、参加学生数も少ない。
- ・特にボランティアについては、受入れ体制(窓口)も不十分で、また、学生の意識教育もできていない。
- ・奉仕活動やボランティア活動の具体的なニーズの提供と意識教育を並行して推進していく必要がある。
- ・本校のアソシエイツ、アドバイザーの方と連携した取組みも必要である。

本校における地域連携支援システム

学生・教職員

支援・指導

地域連携推進員（教育アソシエイト4名、地域連携アドバイザー1名）

学生のものづくり活動の支援
 技術職員に対する技術アドバイス
 福祉用具開発等における技術指導
 ものづくり教育の支援

委嘱

校長

3. 教育力向上のための地域連携の取組み

新居浜高専教育フォーラム

目的

地域の教育課題について、地域にあるさまざまな教育機関が学校種を超えて互いに教育経験を学び合い、情報交換を行うことにより、今後の教育のあり方を探求する。

テーマ例

- ・教科ごとの教育の現状と新しい取り組み
- ・クラブ活動の現状とあり方
- ・進路指導の現状とあり方
- ・習熟度別授業、少人数教育の現状と問題点 など

過去の実施状況

- ・「英語の使える日本人をどう育てるか」（平成15年12月26日（金）実施 130名が参加）
- ・「数学（算数）教育の向上を目指して～現状と課題～」（平成17年1月7日（金）実施 90名が参加）

本年度のテーマ

「考える力を育てる科学教育」
 対象：小学校・中学校・高等学校・高専、進学塾等の先生
 及び一般市民
 開催日：平成17年12月26日（月）



3. 教育力向上のための地域連携の取組み

・ 中学校・高校との相互授業参観

昨年度は市内中学校の授業を参観(3校:延25名)
 本年度、工業高校の授業も参観(16名)
 本校の保護者向け公開授業を中学校・高校へ案内(10/22)

・ 市内高校の生徒指導主事会議への参加

(高校の校外指導などには参加していない)

・ 交通安全講習会(警察署)、防火・救急訓練(消防署)の実施

3. 教育力向上のための地域連携の取組み

●課題

- ・ 行事・イベント的な実施で終わっている(いわゆる「やりっぱなし」)場合が多い。
- ・ 実施後にFDとして活用し、定着させていく必要がある。たとえば、定期的な研究会の実施や授業(特別活動)に反映させるなど。
- ・ 環境教育については新居浜市役所などと連携した教育が必要である。
- ・ 高校の校外指導(保護者と協力)などへの参加協力の必要がある。(地域的な問題)

4. 地域貢献としての取組み

公開講座

平成16年度実績
 9講座
 受講者数 57人

ガラス工芸技術の世界
 ホームページの作成
 新居浜機械産業協同組合の実技講座
 (7講座)



平成17年度実績
 4講座
 受講者数 22人

ガラス工芸技術の世界
 ホームページの作成
 新居浜機械産業協同組合の実技講座
 (2講座)



出前講座

○目的

新居浜高専の知的資源を幅広く地域に出向いて紹介することによって、地域の科学技術及び教育文化振興の一助を担うと共に地域社会との関わりを深める。

○対象

学校関係、生涯学習関係、企業、各種団体、勉強会 など

○小中学生対象テーマ 21講座

環境に優しいエネルギーについて
 コンピューターで絵や文字を描く
 電気で遊んでみよう! など

○市民対象テーマ 26講座

医療現場や生活の中での生体計測とは
 「化学工学の基礎」企業の技術者向け
 生命倫理について考える など

シンボルロボアイデアコンテスト

本校主催のコンテストとしては、初めての試み

応募作品数

学生・一般の部	112
小中学生の部	185



4. 地域貢献としての取組み

●課題

- ・講座数が少なく、本年度も新規の講座はない。
- ・出前講座としては試行的実施しかできていない。早期の実施手順のシステム化(テーマの情報提供は前年度に)が必要である。
- ・実施時期については、長期休業中、土日などの有効活用も検討し、学生参加型講座として定着させたい。(本校学生の学外学習としての取組み)。

